



虐待防止のための指針

株式会社明日葉

1. 事業所における虐待防止に関する基本的な考え方

虐待は人権侵害であり、犯罪行為という認識のもと、障害者虐待防止法の理念に基づき、利用者の尊厳の保持・人格の尊重を重視し、権利利益の擁護に資することを目的に、虐待の防止とともに虐待の早期発見・早期対応に努め、虐待に該当する次の行為のいずれも行わない。

- ① **身体的虐待** : 利用者の身体に外傷が生じ、又は生じるおそれのある暴行を加え、又は正当な理由なく利用者の身体を拘束すること
- ② **性的虐待** : 利用者にわいせつな行為をすること又は利用者にわいせつな行為をさせること
- ③ **心理的虐待** : 利用者に対する著しい暴言、著しく拒絶的な対応又は不当な差別的な言動、その他、利用者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと
- ④ **放棄・放任** : 利用者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置、他の利用者による①から③までに掲げる行為と同様の行為の放置、その他、利用者を擁護すべき職務上の義務を著しく怠ること
- ⑤ **経済的虐待** : 利用者の財産を不当に処分すること、その他、利用者から不当に財産上の利益を得ること

2. 虐待防止委員会【人権擁護委員会】

(1) 虐待防止委員会【人権擁護委員会】の設置及び開催

虐待防止に努める観点から、虐待防止委員会【人権擁護委員会】（以下、委員会）という。）を設置する。委員会は、年に1回以上開催し、次のことを協議する。

- ・ 虐待防止のための指針の整備に関すること
- ・ 虐待防止のための職員研修の内容に関すること
- ・ 虐待等について、職員が相談、報告できる体制整備に関すること
- ・ 職員が虐待等を把握した場合に、市町村への通報が迅速かつ適切に行われるための方法に関すること
- ・ 虐待等が発生した場合、その発生原因等の分析から得られる再発の確実な防止策に関すること
- ・ 再発防止策を講じた際に、その効果についての評価に関すること

(2) 委員会の構成メンバー

委員会の運営責任者は管理者とし、構成メンバーは生活支援員等、事業所の職員から委員会の設置趣旨に照らして必要と認められる者を選出し、構成する。

(3) 身体拘束等適正委員会や関係する職種、取り扱う事項が相互に関係が深い場合は、他の会議と一緒に使う場合がある。

(4) 会議の実施にあたっては、テレビ会議システムを用いる場合がある。

3. 虐待防止のための職員研修に関する基本方針

虐待防止のための職員研修を原則、年1回及び新規採用時に実施する。

研修の内容は、基礎的内容等の適切な知識を普及・啓発するものとともに、本指針に基づき、権利擁護及び虐待防止を徹底する。研修の実施内容については、研究資料、実施概要、出席者等を記録し、電磁的記録等により保存する。

4. 事業所内で発生した虐待の報告方法等の方策

- ① 職員等が、利用者への虐待を発見した場合、虐待防止担当者（虐待防止委員）もしくは虐待防止責任者（管理者）、さらには、行政機関の担当窓口に報告する。
- ② 虐待防止担当者は相談や報告があった場合には、報告者の権利が不当に侵害されないように注意を払い、虐待等を行った當人に事実確認を行い、必要に応じ、関係者から事情を確認する。
- ③ 事実確認の結果、虐待等の事象が事実であると認識された場合には、當人に対応の改善を求め、就業規則等に則り、必要な措置を講ずる。
- ④ 上記の対応を行ったにもかかわらず、善処されない場合や緊急性が高いと判断される場合は、市町村等の窓口外部機関に相談する。
- ⑤ 事実確認を行った内容や虐待等が発生した経緯を踏まえ、委員会において、当該事案がなぜ発生したかを検証し、原因の除去と再発防止策を作成し、職員に周知する。
- ⑥ 虐待等の発生後、再発が想定されない場合であっても、事実確認の概要及び再発防止策を市町村の行政機関に報告する。

5. 虐待発生時の対応に関する基本方針

虐待等が発生した場合には、速やかに市町村へ報告するとともに、その要因の除去に努める。客観的な事実確認の結果、虐待者が従業員等であったことが判明した場合は、役職等を問わず、厳正に対処する。

また、緊急性の高い場合には、市町村及び警察等の協力を仰ぎ、被虐待者の権利と生命の保全を優先する。

6. 成年後見制度の利用支援に関する事項

利用者又はご家族に対して、必要に応じて利用可能な成年後見制度について説明し、求めに応じ、適切な窓口を案内する等の支援を行う。

7. 利用者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、利用者や家族等が自由に閲覧できるように、事業所内に常設し、また、ホームページに公表する。

8. その他虐待防止のために必要な基本方針

「3. 虐待防止のための職員研修に関する基本方針」に定める研修のほか、外部機関により提供される虐待防止に関する研修等には積極的に参加し、利用者の権利擁護とサービスの質を低下させないよう常に研鑽を図る。

令和3年4月1日 作成

令和4年4月1日 見直し

令和5年4月1日 見直し

令和6年4月1日 見直し

令和7年4月1日 見直し